

課題掲げる 技術士のソリューション [91]

山本技術士事務所所長
山本 紀夫 (経営工学・機械
・資源工学部門)

「父親の技術」感銘
読者の皆さまは「父親の技術」という書籍を存じだらうか。文学博士で心理学者の記述武俊氏の執筆によるこの書籍を、私は長女が10歳のころ読み、その影響を受けた記憶がある。技術については折に触れて記述し、またお話しをしてい

るが、考えるほどに奥行きが深まり、さらに視野が広くなるのを感じている。

「原発事故」物語る
あるいは公義の安全性、もしくはユーザビリティー(使いやすさ)などの

例えは社会の仕組みや解説図では技術の応用
例として「共生の技術」

ないことが分かる。

これまで踏み込まなく

とも、という意見もある

地球上の「全ての生物の

が原発事故一つを取り上

げても、適切な対応のた

めには、技術の領域は一

般的に考えられている自

然科学の範囲などまち

めと言えよう。そして、

スタートとなるのが人権

尊重である。

社会的責任の範囲拡大

人権尊重へ倫理対応再考

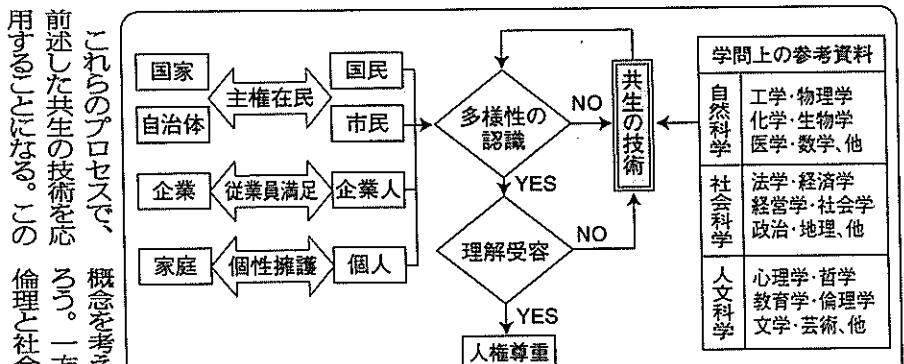
情緒面に踏み込むと、よを挙げたが、これも技術の複雑なプロセスやソフトウエアなどが含まれて、近年の技術はおのずと守備範囲が広がる要素ばかりである。

技術の役割多様化

科学であれ技術であ

国家から家庭に至るまで全の領域での検討や対策が必然となる。課題解決の第一歩は「多様性」の概念を認識することであります。それを前提として、多様性を理解し受容すればならない。

科学技術・大学



このように、技術の役割が工学や自然科学の範囲に限定されない現実から、技術者には技術の役割を見直すとともに、倫理面からの対応についての見直しが求められる。一方で、技術者自身も従来の慣習を考慮するための努力をしなければならない。

(水曜日に掲載)



課題挑む

技術士のソーシャンション

[92]

人類の幸福とは

現在、企業内外の若手の原子力技術者に技術指導をしているが、熱心で優秀な技術者が多い。しかし、彼らは科学以外の価値、例えば文化、政治、経済など異なる価値を学ぶ機会は必ずしも十分ではない。

西菱エンジニアリング 原子力プラント技術部主幹
津田 文男 (機械部門)

追いつけ追い越せが命題であったが、現代はそれだけでは不十分である。要するに「人類の幸福とは何かを考える力」が技術者に求められる重要な問題を解決していく高

い倫理意識が現代の技術者には求められている。「大津波」考慮せず

耐震設計が大丈夫でも

大津波による影響で不測

衆に対してもリスクを開示し、コミュニケーション

リスク公開し対話を

科学技術と社会橋渡し

3月11日に発生した東日本大震災で深刻な被害を受けた福島第一原発事

故は、被災状況から、技術面のみではなく倫理面

過去においては先進国における技術者倫理を高めていく目標は変化しており、技術者倫理を高めていくべきである。しかし、彼らは科学

の事故につながったものであり、過去に三陸沖で発生した大津波(慶長津

ことを教訓にできていないからこの課題も表面化してしまった。これは倫理面からいえば当該原

らも重要な教訓を示唆している。

参考文献: 札野順編著「改訂版技術者倫理」

福島原発事故から明らかになったに、科学技術は大きなリスクを伴う。科

学技術の活用に際し、技

術者倫理の観点からは顧

客や雇用主の意向に沿う

ことだけでなく、その技

術を利用する社会(公

衆)に対してリスクを開

示し、コミュニケーション

福島原発事故から明らか

になつて、科学技術は

大きなリスクを伴う。科

学技術の活用に際し、技

術者倫理の観点からは顧

客や雇用主の意向に沿う

ことだけでなく、その技

術を利用する社会(公

衆)に対してリスクを開

示し、コミュニケーション

福島原発事故から明ら

かになつて、科学技術は

大きなリスクを伴う。科

学技術の活用に際し、技

術者倫理の観点からは顧

客や雇用主の意向に沿う

ことだけでなく、その技

術を利用する社会(公

衆)に対してリスクを開

示し、コミュニケーション

福島原発事故から明ら

かになつて、科学技術は

大きなリスクを伴う。科

学技術の活用に際し、技

術者倫理の観点からは顧

客や雇用主の意向に沿う

ことだけでなく、その技

術を利用する社会(公

衆)に対してリスクを開

示し、コミュニケーション

福島原発事故から明ら

かになつて、科学技術は

大きなリスクを伴う。科

学技術の活用に際し、技

術者倫理の観点からは顧

客や雇用主の意向に沿う

ことだけでなく、その技

術を利用する社会(公

衆)に対してリスクを開

示し、コミュニケーション

福島原発事故から明ら

かになつて、科学技術は

大きなリスクを伴う。科

学技術の活用に際し、技

術者倫理の観点からは顧

客や雇用主の意向に沿う

ことだけでなく、その技

術を利用する社会(公

衆)に対してリスクを開

示し、コミュニケーション

福島原発事故から明ら

かになつて、科学技術は

大きなリスクを伴う。科

学技術の活用に際し、技

術者倫理の観点からは顧

客や雇用主の意向に沿う

ことだけでなく、その技

術を利用する社会(公

衆)に対してリスクを開

示し、コミュニケーション

福島原発事故から明ら

かになつて、科学技術は

大きなリスクを伴う。科

学技術の活用に際し、技

術者倫理の観点からは顧

客や雇用主の意向に沿う

ことだけでなく、その技

術を利用する社会(公

衆)に対してリスクを開

示し、コミュニケーション

福島原発事故から明ら

かになつて、科学技術は

大きなリスクを伴う。科

学技術の活用に際し、技

術者倫理の観点からは顧

客や雇用主の意向に沿う

ことだけでなく、その技

術を利用する社会(公

衆)に対してリスクを開

示し、コミュニケーション

福島原発事故から明ら

かになつて、科学技術は

大きなリスクを伴う。科

学技術の活用に際し、技

術者倫理の観点からは顧

客や雇用主の意向に沿う

ことだけでなく、その技

術を利用する社会(公

衆)に対してリスクを開

示し、コミュニケーション

福島原発事故から明ら

かになつて、科学技術は

大きなリスクを伴う。科

学技術の活用に際し、技

術者倫理の観点からは顧

客や雇用主の意向に沿う

ことだけでなく、その技

術を利用する社会(公

衆)に対してリスクを開

示し、コミュニケーション

福島原発事故から明ら

かになつて、科学技術は

大きなリスクを伴う。科

学技術の活用に際し、技

術者倫理の観点からは顧

客や雇用主の意向に沿う

ことだけでなく、その技

術を利用する社会(公

衆)に対してリスクを開

示し、コミュニケーション

福島原発事故から明ら

かになつて、科学技術は

大きなリスクを伴う。科

学技術の活用に際し、技

術者倫理の観点からは顧

客や雇用主の意向に沿う

ことだけでなく、その技

術を利用する社会(公

衆)に対してリスクを開

示し、コミュニケーション

福島原発事故から明ら

かになつて、科学技術は

大きなリスクを伴う。科

学技術の活用に際し、技

術者倫理の観点からは顧

客や雇用主の意向に沿う

ことだけでなく、その技

術を利用する社会(公

衆)に対してリスクを開

示し、コミュニケーション

福島原発事故から明ら

かになつて、科学技術は

大きなリスクを伴う。科

学技術の活用に際し、技

術者倫理の観点からは顧

客や雇用主の意向に沿う

ことだけでなく、その技

術を利用する社会(公

衆)に対してリスクを開

示し、コミュニケーション

福島原発事故から明ら

かになつて、科学技術は

大きなリスクを伴う。科

学技術の活用に際し、技

術者倫理の観点からは顧

客や雇用主の意向に沿う

ことだけでなく、その技

術を利用する社会(公

衆)に対してリスクを開

示し、コミュニケーション

福島原発事故から明ら

かになつて、科学技術は

大きなリスクを伴う。科

学技術の活用に際し、技

術者倫理の観点からは顧

客や雇用主の意向に沿う

ことだけでなく、その技

術を利用する社会(公

衆)に対してリスクを開

示し、コミュニケーション

福島原発事故から明ら

かになつて、科学技術は

大きなリスクを伴う。科

学技術の活用に際し、技

術者倫理の観点からは顧

客や雇用主の意向に沿う

ことだけでなく、その技

術を利用する社会(公

衆)に対してリスクを開

示し、コミュニケーション

福島原発事故から明ら

かになつて、科学技術は

大きなリスクを伴う。科

学技術の活用に際し、技

術者倫理の観点からは顧

客や雇用主の意向に沿う

ことだけでなく、その技

術を利用する社会(公

衆)に対してリスクを開

示し、コミュニケーション

福島原発事故から明ら

かになつて、科学技術は

大きなリスクを伴う。科

学技術の活用に際し、技

術者倫理の観点からは顧

客や雇用主の意向に沿う

ことだけでなく、その技

術を利用する社会(公

衆)に対してリスクを開

示し、コミュニケーション

福島原発事故から明ら

かになつて、科学技術は

大きなリスクを伴う。科

学技術の活用に際し、技

術者倫理の観点からは顧

客や雇用主の意向に沿う

ことだけでなく、その技

術を利用する社会(公

衆)に対してリスクを開

示し、コミュニケーション

福島原発事故から明ら

かになつて、科学技術は

大きなリスクを伴う。科

学技術の活用に際し、技

術者倫理の観点からは顧

客や雇用主の意向に沿う

ことだけでなく、その技

術を利用する社会(公

衆)に対してリスクを開

示し、コミュニケーション

福島原発事故から明ら

かになつて、科学技術は

大きなリスクを伴う。科

学技術の活用に際し、技

術者倫理の観点からは顧

客や雇用主の意向に沿う

ことだけでなく、その技

術を利用する社会(公

衆)に対してリスクを開

示し、コミュニケーション

福島原発事故から明ら

かになつて、科学技術は

大きなリスクを伴う。科

学技術の活用に際し、技

術者倫理の観点からは顧

客や雇用主の意向に沿う

ことだけでなく、その技

術を利用する社会(公

衆)に対してリスクを開

示し、コミュニケーション



課題挑む

技術士のソリューション

[93]

ゴミ扱い

大企業を4年目にして転職する設計者から相談を受けた。退職するに当たって、彼の業務を引き継ぐ社員が一人もいないという。

日本企業における技術者特に設計者への扱いが希薄となっている。そのひとつが、「丸投げの業務体制」である。派遣設計者とならば、「ゴミの

國井 良昌 (機械部門)
國井技術士設計事務所所長

國井 良昌 (機械部門)

技術者倫理③ 日陰に追いやられる設計者

科学技術・大学

ない。近年、マスクゴミも未だ捉えていない事象がある。それは、日本企業の設計力低下と設計者の業務体制である。今日は、日陰の設計者にスポットを当てたい。中国における日系企業あるじのルールが存在しない。原の仕事が好きで、それが増加している。特許出願が低迷している。③初任給だけが高い。④商品のCIMが多い。⑤コンパニ

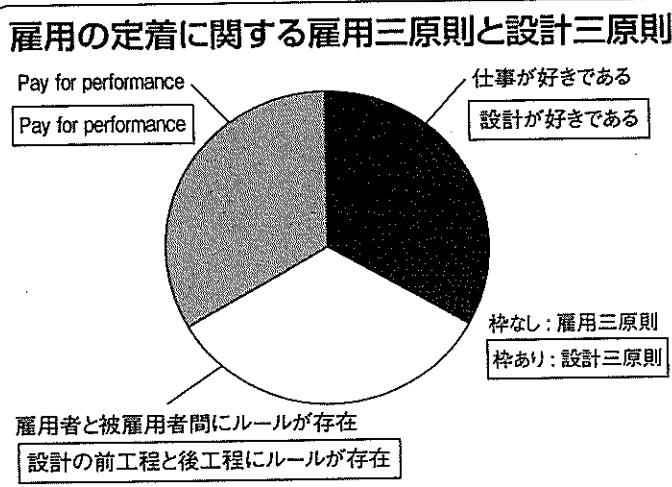
は、①その仕事が好きで、それが設計力向上につながる。それは、以下に示す「設計三原則」である。①設計が好きである。②設計が好きである。③設計が好きである。

雇用条件の改善急務 丸投げ脱却・派遣ルール必須

着はあり得ないと主張する。また、被雇用者にも「雇用三原則」を常に満たせるよう自身も努力する」とを指導していた。

一方、「中国人の定着率が低い」という企業に

関しても、以下の結果を得ている。



みでる」と、②設計の前工程と後工程にルールが確立している。③Pay for Performance (仕事の成果に対して金銭、もしくはそれに相当する喜びが得られる)。キーワードは「同時に満たさなくては被雇用者の定着率が低い」という。この「雇用三原則」を国にまとめた。

「丸投げの業務体制」も「ゴミのよう扱い」も前記の欠落である。②が欠落すれば、①も③も満たせることははない。重複するが、三原則のキーワードは「同時に満たす」である。

(水曜日)掲載



課題挑む

技術士のソリューション

[94]

「コストと性能劣化」

が頭で考えて教える傾向があるように思われる。ところが、実際の技術者の仕事においては、頭で考えただけでは理解できない部分が多くあるよう感じる。その中でも、組織と個人との相克といふものが占める部分は大

平野技術士事務所所長

平野 富夫 (金属、総合部門)
(金屬技術監理部門)

技術者倫理④

設計能力向上へ倫理教育

きい。分かりやすい例では、企業に勤めている技術者ならばよく経験することであるが、コストと性能劣化の問題である。

企業は利益追求団体であるために、どうしてもコストダウンを行い、利益の最大化を図る。そのためには性能劣化することは避けられないはずである。

この問題には、同じ手法によるコストダウンの回数を制限するといった問題もある。しかし、企業においても増えてきていく。かなりの大企業では、かなりの費用である。

一次試験で必須

最近の大学では、JA

BEE (日本技術者教育認定機構) 認定のコース

で技術者倫理を教えてい

る。しかし、企業においても増えてきていく。かなりの大企業では、かなりの費用である。

精神レベル底上げを

国際競争力視野に人材育成

材料の安価品の使用を検討する。その際に、性能劣化が無いことが第一条件ではあるが、必ずしもそのようとうまくいくケースばかりでない」とは容易に想像できる。

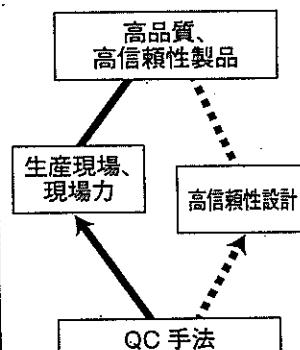
そのような場合に、評

者倫理教育レベルも影響

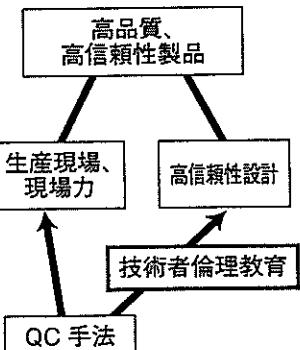
対策はシステム上考え方の異なる関係の担当者も変わることはあるが、設計者も変わることもある。関係の担当者も変わることもある。そのため、技術者倫理教育を施していくところは少ない。技術士の試験においては、1次試験において技術者倫理は必須であり、2次試験でも直接で諮問が行われる。従って、技術士資格の保有者は一定レベルを持ち込んだ統計的QC (品質管理) 手法を、日本人らしい生産現場で取り組み改良を加え高品質の製品を作ることで、メードインジャパンの称

技術者倫理教育の QC に関する位置付け

従来の日本



これからの日本



日本はアーミング博士が号を芳賀品から高級品へ変えてきた歴史がある。しかし、その中身はあって、その内に技術者倫理が不可欠との認識があるのだと思われる。これからグローバル競争に打ち勝つには、倫理観をベースにした設計者の養成が不可欠で、そのため技術士が先頭に立つべきと考えています。

(水曜日に掲載)

科学技術・大学



課題掲げる 技術士のソリューション

[96]

ニコンコアテクノロジーセンター
プロセス機器開発部

田中 慶一 (機械部門)

人的被害を阻止

半導体ウエハを特殊環境下で処理する装置は、複雑な機構やシステムの集合体になる場合が多く、操作手順を誤ると求める性能が得られないばかりか、装置の故障やウエハーの破壊、人的被害に発展する」とも少なくない。ここで、半導体

安全・安心②
新規開発装置の安全性

科学技術・大学

多くの操作手順を誤ると求める性能が得られないばかりか、装置の故障やウエハーの破壊、人的被害に発展する」とも少なくない。ここで、半導体

半導体ウエハを特殊環境下で処理する装置は、複雑な機構やシステムの集合体になる場合が多く、操作手順を誤ると求める性能が得られないばかりか、装置の故障やウエハーの破壊、人的被害に発展する」とも少なくない。ここで、半導体

製造装置のうち、加圧加熱処理を伴う新規装置を例に安全・安心に関する取り組みを紹介する。

故障コード解析により、各誤動作による装置への影響度を事前に分析する。重度な事象に対しては、例えば、加圧前に加熱しないなどのインタ

操作基準を設定して正常に機能させる方法

故障による影響の抑制。要求機能の一部が不具合しないようにする方法

設けている。

高信頼化手法

一ロックで保護し、軽度な事象に対しては、例えば、誤動作した圧力センサや温度センサーを除外した残り複数のセンサ

作基準として操作マニュアルを設けるほか、最適な処理条件のパラメーター調査の際の事故発生頻

システムの高信頼化手法は表のようだ。航空機や自動車では、

時間プロファイルで設定可能なように、装置にあらかじめ操作自由度を与えていた。従って、実施度を下げるため、処理回数を必要最小限に絞り込んだ実験計画法を適用するなど、一定のルールを

は開発段階にあり、現在は精度や処理能力などの性能に注力している。商品として市場投入する段階では、稼働率や安全性の向上、操作容易性からくる安心感を付加していく予定である。新規装置でも安全・安心な附加価値を提供していきたい。

シス

シス

(水曜日に掲載)



課題挑む

技術士のソリューション

[98]

評価時間を短縮

現代社会は多くの新しい化学物質に支えられて
いる。例えば、ペットボトルは多くの飲料容器として採用され、ガラスや金属容器が代替されてい
る。有機材料は新規物質が合成可能であり、その評価に多大な時間が必要になつていてる状況があ
る。

平野技術士事務所所長

平野 富夫 (金属・総合技術部
監理部)

安全・安心④

新分析法としての化学発光法

科学技術・大学

分解過程の光で評価

価されずに市場に出でることはあり得ない。しかし、企業サイドでは開発した製品の早期市場投入のために、その評時

しては、食用油が華麗化され、過酸化物が増え、劣化する。たんぱく油は、熱や光で過酸化物が増え、劣化する。

無を調べるために用いるルミノール反応が代表的である。

本装置は非常に微弱な発光も検出可能な高感度であるために、初期段階での劣化状況が分かり、通常では屋外暴露で数年単

る。中でも高分子材料の劣化はその製品寿命、価格、設計などに大きく影響を与えるので、その評価は重要である。

法律上は化学物質審査規制法(通称・化審法)のように新材料からの脅威を防ぐ社会システムがあり、新規化学材料が評

価されずに市場に出でることはあり得ない。しかし、企業サイドでは開発した製品の早期市場投入のために、その評時

しては、食用油が華麗化され、過酸化物が増え、劣化する。たんぱく油は、熱や光で過酸化物が増え、劣化する。

無を調べるために用いるルミノール反応が代表的である。

本装置は非常に微弱な発光も検出可能な高感度であるために、初期段階での劣化状況が分かり、通常では屋外暴露で数年単

間を短縮したいという要

求は常に存在している。

間を短縮したいといふ要

求

を食べる」と、食あたり、

ケミルミネ

ツセンスア

ナライザー

……

たものが

ある。化学

発光分析装置を「ケミルミネッセニアライザー」という商品名で独自製品を開発し、売している会社が東北地方にある。

方にある。

力用を要したプラスチックや塗料、自動車内製品等の評価が数時間の過熱

化で可能と考えられ、

最近注目されてきてい

けられ、この新技術を取

り入れることにより、安

全かつ安心して早期に新

材料が使えるようになれ

ば幸いである。

方法の検討と評価技術、分析技術の検討がある。今回紹介した化学発光法は評価分析技術に位置付けられ、この新技術を取り入れることにより、安全かつ安心して早期に新材料が使えるようになります。

接的なデータが得られ、非常に有効である。

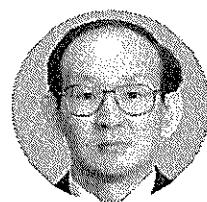
現状では食品分野での用途が多く、生体関連が次いでいるが、今後テクノロジーが蓄積されるにつれて、高分子材料の分野が増えてくることが予想される新材料を早期に評価して、社会に安全かつ安心して使えるようにするには、新しい評価技術が必要である。

評価技術には加速劣化

方法の検討と評価技術、

分析技術の検討がある。

方法の検討と評価技術、



巡る技社長

生産技術を担当していくJIN、よく装置メーカーへ行った。目的は打ち合わせ、進捗確認、最終検査などであるが、その時にはさりげなくSST（整理、整頓、清潔、清掃、しつけ）を観ていった。企業の実力はSSTから出るからである。

課題挑む

[99]

整理整頓がでかでいいな
ければ製品不良も起らし
やすくなる。しかし、そ
れだけではない。働く方
々が積極的にうちにに参加
する」と製品の質が向
上するのである。例えば
本当に職場をきれいにし
ようとするとい掃除して
い場所に気が付く。そ

そういうして毎日競馬をさういふにしようとしているれど、今度は自分たちの製品は掃除しやすいだらうかと考えるがつたくなる。それだけと思つかもされない。しかし、一度観る習慣ができてくると、他に不具合点を見えてくるから不思議である。目的は異なつていても、いろいろのことを観るトコ

```

graph TD
    A[現状課題の抽出] --> B[設計、生産技術の改良]
    C[知識、経験] --> B
    C --> A

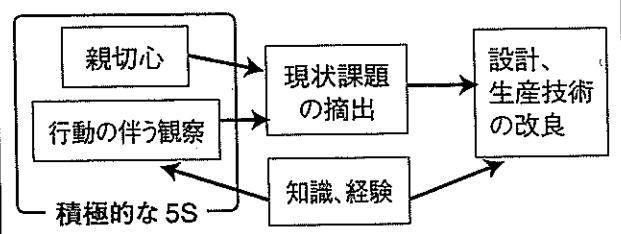
```

検査後の会議で改善を要求したところ、「それは契約にあるか」と問うてきた。契約にあつたために改善されることはなったが、それ以降はその会社への発注は消極的になつた。

「コンプライアンスなど

つかつた。そこで心を持続させる肝要である。機械的に観るだけでは使いにくい部分も見逃してしまいかねない。使う立場に立ってという仮定ではなく、本当に使いたい、そこから使用者の気持ちをくみ取るのである。それが顧客への態度にもつながってくる。

本質的な品質向上への流れ



の態度も変わっていく。世の中そんなに甘くない、というかもしれない。逆の実例を挙げよう。ある会社に注文した製品の最終検査を行ったところ、安全上の改善点が

い。本質を理解するといふことから、使用するだよ

立派な会社が良いもので、
いう企業としての
理解していくなかに
ある。

上に役立つと信じられます。しかし、この品質とは故障しないことの意味をいたしません。使いやすさという付加価値も含めてくるのであります。

科學技術·大學

しつけでも手順書に従うのではなく親切心からの行動になってくると来客

ある会社に注文した装
の最終検査に行つたと
ろ、安全上の改善点が

つまり単に仕様を満足するだけではなく、親切

何處か見つけたのである。

課題挑む

技術士のコンピューション

[100]

技術士事務所Gプランニング代表

出口 刷太 (資源工学部門)

出口 刷太 (資源工学部門)

てきた。しかし、石炭需要のほぼ全量を輸入に依存している現在、CBMは未利用資源として地中深く眠ったままである。

開発が行われているが、わが国では石炭層の構造が多い）、あるいはガスの透過率が低いなどの理由

（上）
炭層メタンの活用
てまた。しかし、石炭需要開発が行われているが、
のほぼ全を輸入に依存わが国では石炭層の構造
している現在、CBMはが複雑（断層や褶曲が
未利用資源として地中深多い）、あるいはガスの
く眠つたままである。透過率が低いなどの理由
現在、CBM利用分散型エネルギー・システムの実現に向け、さまざまな観点から検討を加えていく。既に試掘権を取得している鉱区を対象として、生産量を予測した結果、深さ1000㍍前後の生

生産井の掘削・仕
産井を20本程度配置する
ことで年間1,000万立
方㍍のCBMを20年間に
わたって回収できる可
能性が示された。
このガスを発電に利用
する場合には、プラント
なく生産井の本数を減ら
上げ費用が総費用に占める
割合は最大5割と高
く、この部分でのコスト削
減が商業生産の実現に
不可欠である。

の増産が可能となる。この技術を実用化すれば、ゼロエミッション発電が可能となり、わがなる低炭素社会の構築に貢献できる。

素(CO₂)、窒素酸化物、硫黄酸化物などの排出が少ないクリーンな純国産エネルギーである。国内で石炭採掘が盛んであったころには、安全採掘を目的として、採掘現場から回収されたCBMを自家消費用の熱源や発電用燃料として利用し、米豪中で商業開発が難しいと考えられており、その資源量は国内の天然ガス埋蔵量に匹敵するとも言われている。CBM資源が豊富な米国、豪州、中国などでは、既に大規模な商業開発により地域社会にクリーンなエネルギーを安定供給する、いわゆる分散型エネルギーシステムのベースエネルギーとしての活用が可能である。

CO₂固定化も
石炭はCO₂をCBM
主成分であるメタンの数
するが、大規模開発で実
用化されている少ない生
産井でガス生産量を増や
す技術が、複雑な地質条
件の国内現場でも適用で
きるかが鍵となる。

